

うしく里山の会 広報誌

さとやま

(No. 72 2009年2月号)

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>

自然の不思議と魅力を伝えて

自然観察出前講座 石神 良三

牛久二小校庭にて

撮影 牛久第二小学校

平成20年度「自然観察出前講座」活動状

21年1月18日現

| 月 | 日 | 対象 | 内容 | 場所 | 参加者 | | | |
|----|----|----------|-------------|----------|------|------|-----|------|
| | | | | | 幼児 | 小中学生 | 大人 | 合計 |
| 5 | 1 | 小学生 | ヘイケボタルの保全講習 | 向台小 | | 113 | 3 | 116 |
| | 2 | ふれあいサロン | 地域緑地の野草観察 | 田宮地区 | | | 29 | 29 |
| | 7 | 小学生 | ヘイケボタルの保全田植 | 牛久地区 | | 113 | 5 | 118 |
| 6 | 29 | 幼稚園児 | 身近な自然観察 | 稲敷地区 | 78 | | 4 | 82 |
| | 17 | 小学生 | 水辺の生き物観察 | 城中地区 | | 126 | 8 | 134 |
| | 20 | 幼稚園児 | " | " | 58 | | 73 | 131 |
| | 22 | 市行事参加者 | 城中地区の自然と歴史 | " | | 20 | 23 | 43 |
| | 2 | 小学生 | 校庭の生き物観察 | 田宮地区 | | 72 | 3 | 75 |
| 7 | 10 | 保育園児 | 身近な自然観察 | 牛久地区 | 26 | | 3 | 29 |
| | 11 | 小学生と保護者 | ヘイケボタルの観賞 | " | | 78 | 92 | 170 |
| | 12 | " | " | " | | 41 | 85 | 126 |
| | 20 | 向台自治会とサロ | " | " | | | 30 | 30 |
| | 21 | ふれあいサロン | " | 遠山地区 | | | 28 | 28 |
| 9 | 23 | 市民グループ | " | 牛久地区 | | | 15 | 15 |
| | 26 | 保育園児 | 身近な自然観察 | 文化地区 | 28 | | 3 | 31 |
| | 10 | 3 | 小学生 | 校庭の生き物観察 | 田宮地区 | | 72 | 3 |
| 9 | | " | 稲刈り | 牛久地区 | | 113 | 5 | 118 |
| 27 | | 幼稚園児 | 秋の自然観察 | " | 36 | | 3 | 39 |
| 11 | 11 | 小学生 | 池の生き物観察 | " | | 113 | 4 | 117 |
| | 25 | 幼稚園児 | 秋の自然とクラフト | 岡見地区 | 37 | | 3 | 40 |
| 合計 | | | | | 263 | 861 | 422 | 1546 |

自然観察出前講座も四年目に入り、今年度の活動もほぼ終了。別表の通り二十回の要請を受け、延五十七名の会員の方々の尽力により実施することができた。

参加者については、幼児、小中学生、大人の合計が、一、五四五名と前年度より増加している。特に幼児と小学生の増加は、次代を担う人材育成の視点からも嬉しい限りである。

「手に取るなやはり野における蓮華草」という句がある。自然に自生する全ての生物の生態には、それぞれに生きるための進化の歴史が秘められている。だからこそ自生地での環境を含めた自然観察に意味がある。

身近にある本物の自然にふれることをとおして、その生き方の面白さや不思議さに驚き、感動させられる。そしてこのような体験は、自然に対する豊かな心を育くみ、人生をも支えてくれるであろう。

これからも、出前講座の果たす役割を再認識し、参加者の視点に立つ活動を展開していきたいと思う。

平成二十一年一月七日読売新聞記事

街・ふれあい

「郷土の正月」伝える
◆牛久◆ 郷土に伝わる昔ながらの正月の遊びや風習を伝える企画展が、結束町の牛久自然

観察の森ネイチャーセンター(029・8974・6600)で開かれている。

正月のしめ縄飾りの作り方や羽つき、すゝくといった懐かしい遊びをはじめ、三が日の間、茶や料理に使う井戸水を元旦にくむ「若水くみ」や、正月の3日に行われる農耕に

とっての仕事を始め「イチクワ」など、牛久に伝わる習わしを絵や写真などで解説している。

大人の来場者は懐かしみ、子供は珍しがるなどして新年の伝統行事に興味を示していた。市内からきた川村哲平君(10)は「しめ縄は完成品しか見たことがなくて、作り方を初めて知った」と話していた。15日頃まで。



昔ながらの正月の習わしを紹介する企画展

うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどうなことがあったでしょうか?

それでは紹介しましょう!








炭焼き講座報告

新年初の三連休を利用して久々に「木炭」を焼きました。前回、前々回と竹炭を焼いて助走とし、満を持しての木炭焼きの認識です。コナラを玉切りし、更に細く割り入れていますので、うまく焼けていれば綺麗な炭になっていると思います。

その炭焼きの中間日に、定例の公開炭焼き講座



雑木林応援隊事業報告

雨宮 廣之

を行いました。申込者は十五名で、ご夫婦での参加、男性の単独参加、女性の単独参加と、様々な方たちが、晴れた観察の森を楽しんだ一日でした。炭焼き講座参加者には、所謂ペール缶で竹炭焼きを教えているのですが、この準備に結構かかりました。

ムジナで竹を切り出し、ペール缶の長さに合わせて切ります。次に大体四分割し節を取って炭材にするのですが、参加者にも楽しんで頂くために節取りは各自にやって貰いました。それをペール缶に詰め込むのですが、全体の流れを説明していただきますので、細い丸竹を入れる人、思いつきり詰め込む人・・・と焼き上がりを想像してか様々です。節取りは、ナタの使い方から指導します。後は、応援隊の面々に教えられながら、前日に掘っておいた穴を微調整して煙突と共に設置します。人数に会わせて、七窯を用意したのですが、準備が終わり火入れが出来たのは十時十分でした。窯の準備の間に、手が空いた人がタキギの準備もして貰います。昨年よりエコアップ作戦が始まり、森に入って杉葉、枝を拾うことが出来ますので、それも楽しい作業です。

みんな一斉に火を入れて、後は焚き火の要領で焼き続けるだけです。この焚き火が結構難しいのです。焚き火にも綺麗・汚いがあり、少量の炭材で綺麗に焚き火をするには、ある程度の経験とノウハウが必要なのです。

やはり途中で消えてしまつ人も出ます。農家のお

年をめした方たちは、火の扱い方がうまく、少量の薪で効率良く窯に熱を送っていました。焼き上がりも一番早く、実力を感じました。



炭の出来映えですが、今年の参加者は、皆さん上手で、三時間程で、焼き上がりました。窯の温度が下がるのを待って、一窯ずつ開けていきましたが、全窯大成功で、開けるたびに歓声が上がります。万が一のために別に持ち帰り用の竹炭を用意していたのですが必要ありませんでした。皆さん子供に戻ったように、目をキラキラさせて観察の森での一日を楽しんだ「炭焼き講座」でした。



巨木リサーチ事業報告

内田智子

樹高グループに参加して

私達は、月に二回ほど、朝八時三十分には牛久市役所玄関前に集合し、自家用車数台に分乗して、

目的の樹木のあるところに向かいます。初年目は「市民の木」、二年目は「社寺境内の木」、そして昨年は、「個人の敷地内の木」を中心に調査を行いました。巨木とは一般に目通りの幹の太さが三メートルを越える樹木をさします。昨年はこれほど大きな樹木が個人の敷地内にあるのを見て驚くとともに、牛久の人々の生活の歴史を感じました。何百年も風雪に耐えて生きてきた巨木はそれだけでも威厳があります。個人宅のそれは、その家の歴史を見続けてきた誇りを持っているようにさえ感じます。家人も私達が調査することで、改めて所有している樹木の貴重さを感じられるようです。そして、その樹木にまつわる話を懐かしむように楽しそうに話してくださいませ。

調査の内容は、樹高（木の高さ）や幹周（幹の太さ）の測定とその樹木の生えている周辺の環境や植生の観察です。それに写真撮影が入ります。私が所属する樹高グループは、現地につくとまず木の全体が見えるスポットを探します。これがなかなか難しく、周囲の藪で根元が見えなかったり、手前に生えている植木の枝で幹が見えなかったりします。そのような時には誰かが草や枝を押さえるなど全身を使っての作業となります。納得のいくスポットを見つけると、レーザー測定器トウルーパルスを設置し、皆で原則として五回測定します。樹高は測定した最大値と最小値を除いた値の平均を測定記録とします。作業は樹木に関する情報交換などおしゃべりしながら楽しくしてい



「里山秋祭り」来場者を案内する著者

08.10.13 渡辺

ますが、自分が測定する時だけは皆真剣な顔になっています。

測定の活動以外では、牛久城跡及び牛久沼東斜面の樹木観察を行い、その地域の樹木の変遷を渡辺さんに聴きながら散策しました。また、十月十三日のうしく里山秋祭りで、木の大きさを測ってみよう」を企画し、予想以上に多くの来園者の方々に楽しんでいただきました。そして、茨城県から飛び出して白神山地エコツアールや皇居東御苑の樹木見学などの研修も行いました。私達はこのような楽しみながら巨木に関わっており、この活動が牛久市の方々の巨木や環境に関心を持つきっかけとなれば良いと思っています。



そばプロジェクト事業報告

吉田 里佐

八月末の種まきに始まり、十月末のそば刈り・

脱穀・唐箕かけ、そして製粉されたそば粉となり、いよいよそば打ちの日となりました。前日の天気予報では「寒い！」ということ、おそろおそろ観察舎前に集まった一般の参加者の方々、会員と合わせて二十数名でにぎやかに始まりまし

て、そば打ち、先生」の指導の下わくわくしながら、心配ながらも口元には笑みがこぼれ、なんとかそこかしこで打ちあがっていきます。テーブルには茹で上がったそばがおいしそうに並び始め、つゆ（市販のもので無いのがありがたいですね）や薬味、かきあげ（生姜がピリツと利いた）漬物

も一緒に盛られました。そばがきやそば湯の味見をしながら、さあ「そばをいただきますよ」と、でも「そばの盛られたテーブルの前では、そばをとってすぐ食べないで移動してから食べましょ

う」などと注意があるくらい、すごい勢いで食べ始めます。ゆであがり短い短いそばとなった私の打ったそばでしたが記者（ ）さんに「味があ

るよ」と気を使っていたとき、みなさんにも味わっていただくことになりました。あっといままの時間でしたが、参加された皆さんとの会話も弾み

、

、

おなかもこころもいっぱいになりました。三ヶ月強のプロジェクトの期間中、「そば」だけでなく、梅・シソジュースや漬物・・・と手作りのものに、そしてそれを作った人々にどっぶりつかった時間でもありました。

当日はよみうりタウンネットの取材があり、そば打ちから食べ比べまで三時間ほどお付き合いいただきました。



そば打ちを楽しむ参加者。完成したそば(左下)

牛久 手塩にかけたソバの味

ソバを種から育て収穫し味わう能い「そばプロジェクト」(NPO法人うしく里山の会主催)のそば打ち体験がこのほど、牛久市結束町の自然観察施設「牛久自然観察の森」で開かれ、約30人の参加者はそばづくりと味を楽しんだ。同施設は、

成長の早いソバで手軽に農業体験をしてみようとうとう始まったもので、参加者たちは8月末の種まきから刈り入れ、実落とし、唐箕(とうみ)かけなどを約3か月かけて体験。打ちたてのそばを食べた参加者たちからは、「香りが良く甘みがある」「形は悪けれど自分で打ったそばの味は格



アヤメ受託事業報告

坂 弘毅

今年も暖かな冬でしたが、今まさに寒中に入り、やっと寒さが戻ってきたという感じがします。アヤメ園の作業は一月はお休みです。圃場が凍結

して鎌の刃が立たないといつ大きな理由と、雑草の生育が衰えているため作業を休止しても殆ど問題は無いといつ理由からです。

平成二〇年四月から十二月までの作業日は八十二日になりました。長い道のりのようですが、あつといつ間に過ぎてしまった感じがします。

二〇年度の最大の課題は「株分け」でした。一万株の七割を更新しなければ株が無くなってしまふといつ課題を抱えて株分けがスタートしました。株分けは三年前に衰退した一部の株を更新しましたが、今回は桁が違います。絶対にクリヤーしなければならぬといつ責務が肩に食い込んできます。

梅雨があけて、株分けが開始となりました。しかし、天候不順といつアクシデントに見舞われ、七月と八月は株分け作業は遅々として進みませんでした。雨でも「合羽を着て作業をすれば」とよく云われました。

株分けのポイントは、三年間外界から遮られた圃場の土の天地返しが重要なのです。雨が降っては耕耘機が圃場に入らない。畑と違い湿地状態の圃場ですから少しでも雨が降ればどろどろのぬかるみになってしまいます。こんな事で予定は大きく遅れ、七千株全てが完了したのが十月二十三日でした。

ハナシヨウブはぎめ細かい管理が行われていればそれに応えてくれる生命力を持っています。今年の株分けした苗の活着状態を定期的にフォロウしてきましたが、ほぼ全株新しい根を出していました。来年の花期が楽しみですね。

十二月は二十二日で作業完了としました。この

日は圃場の最終点検と、牛久沼の湖畔の清掃を行いました。牛久沼の水質は僅かですが向上しているようで、ワカサギが大漁となっています。一二月から一月いづはいくらいが漁期とか。このため連日多くの釣り人で賑わっています。しかし、釣り人の残したゴミが散乱、地域住民は大迷惑。この話を聞いたアヤメメンバーはアヤメ園から城中の城山の下までゴミ拾いを行いました。集まったのは空き缶、弁当の容器等々、四五リットのゴミ袋十袋。中には釣り針のついた釣り糸までが放置されていました。こんな状況ですから釣り針を呑み込んで命を落とすハクチョウや水鳥が増えているのも納得できます。アヤメ園の管理を始めてから、今年の四月で四年になりますが、アヤメ園の再生を行いながら、牛久沼に面した貴重な自然環境の整備保全を更に拡大していきたいと考えています。



牛久沼の清掃(回収してきたゴミ)

08/12/22 坂





うしく里山の会全体事業連絡

斉藤 孝

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」
参加者募集のお知らせ

二月は十四日(土)と十五日(日)の実施となります。活動時間は午後一時から三時までの二時間となります。元気な森づくりを行います。集合場所・時間 いずれもネイチャーセンター一階倉庫前・予約不要(雨天中止/強風時中止) 持ち物 長靴、軍手、タオル、帽子、飲み物(長袖、長ズボン)
刈払い機やチェーンソーの使用は資格所有者に限りません。

問い合わせ先) 029-874-6600 担当:石神)



牛久自然観察の森事業報告

渡邊 浩美

高校生とハツラツ森づくり!

一月九日金曜日、江戸崎総合高校をはじめとする県内八校の高校の「農業クラブ」と合同で環境保全作業を行いました。あいにくの小雨模様でしたが、それほどひどくもならなかったのは里山の会の『観察の森 もつといい場所増やし隊』晴れ男の面々のおかげでしょうか。

野外での作業の前に、まずはレクチャー室で坂さんよりエコアップ作戦の概要説明。これは坂さんが「一村一品・知恵の環づくり」発表会のために作成したスライドの大幅パワーアップバージョンです。さすが受賞作！地道な撮影と準備で完成されたプレゼンテーションでした。

それから、保全区に侵食してきた竹を間伐し、

周辺の草刈を行いました。

昼食は、間伐した竹を使ってご飯を炊き、農業クラブの先生方が作った豚汁をいただきました。作業終了後のアンケートでは、「とても楽しくてためになった」、「里山の手入れの大切さがよくわかった」など、大変好評でした。先生方から、ぜひ来年もお願いしたいとの申し出がありました。

平成21年1月17日
常陽リビング掲載

牛久自然観察の森で
高校生らが森林整備

竹で飯盒炊飯も

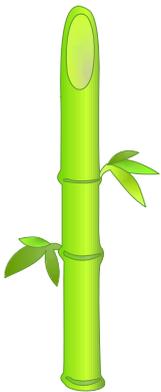
農業科の高校生による森林整備がこのほど、牛久自然観察の森で行われた。冷たい雨が降る中参加した



のは江戸崎総合、石岡一、大子清流、真壁、水戸農、鉢田農の農業クラブに所属する生徒ら20人。牛久里山の会の坂弘毅さんから一人が面倒を見た森は太陽の光が隅々まで届き、クヌギやコナラが育つ健康な森になる」との講義を受けた後、さっそく敷地内の孟宗竹や篠竹刈りに汗を流したり写真。さらに、切り倒した竹の真ん中に穴を開け、中に米と水を入れて即席の飯盒（はんごう）炊飯を体験。溝を

4人で参加した大子清流高2年生のグループは、ふっくら炊き上がったご飯をほお張りながら「大子に帰ってから今度はシーチキンと一緒に炊いてみたい」とこり。「身近な里山の自然の大切さを感じてもらえたいと思います」と江戸崎総合高教諭の長山昭博さん。

若い世代を育てるためにもこういった活動はぜひ続けて行きたいですね。



理事会からのお知らせ

「チーム街路樹20」

受託事業発足のお知らせ 代表理事 坂弘毅

「巨木リサーチ事業」より（街路樹班）が独立して、「チーム街路樹20」の名前で活動を開始しましたので、お知らせいたします。

同班は一昨年、樹木名プレートを市内樹木に取り付けることを市に提案、同年七月より市緑化推進課と協働して調査を続けてきました。今年度、市予算に計上されたため、約四百枚のプレートを市内街路樹と、生涯学習C・下根運動公園、その他各所に取り付けることになりました。昨年十二月に市と委託契約を結び、契約期限は今年の三月末迄です。ボランティア活動で謝金は出ませんが、プレート材料費と、活動するための諸経費が認められています。市は、取付後も維持管理作業を継続する意向ですので、来年度も活動は続く予定です。

受託事業発足については細則に従い、昨年十二月に臨時理事会を招集して承認されました。NPO法人として、受託事業が今後も増えることを期待しています。

メンバーは次の通り（十九名）

責任者・増田、副責任者・樹種名指導・渡辺（泰）、会計・簡

井上、白井、内田（智）、假屋、坂根、佐藤（輝）、田澤、戸塚、成井、羽賀、平塚、廣川、前田、松本、村尾、横山（敬称略）

今月の古木・希少木
No.22
ダイオウマツ



葉とマツカサ 2008.4.2 戸塚

に多く利用
されていま
す。庭園や公
園に植栽さ
れることも
ありますが、
あまり目に
する機会は
ありません。
(小田 洋)

この木の葉は三本ずつ出る三葉松であり、葉の長さが老木では二十〜二十五cm、若木では四十〜六十cmにもなります。マツカサは写真のような形で長さは十五〜二十五cmにもなる特徴があります。材は建材として利用されるといいますが、日本では花材として生け花に多く利用されています。庭園や公園に植栽されることもあります。あまり目にする機会はありません。(小田 洋)

ダイオウマツはマツ科の針葉樹の常緑高木です。本県ではこの木をみることは稀なのですが、牛久市では牛久シャトーの庭でその背の高い木をみることが出来ます。巨木リサーチ事業の樹高グループと幹周グループの昨年の調査では、この木の幹の高さは二十二m、幹周は二百三十二cmです。ダイオウマツはマツ属のなかで最も長い葉をもつので、「大王」の名がついているため、他のマツとの相違が一目で分かります。その原産地は北アメリカの東南部であり、ここでは樹高は四十mを超えるといいますが、日本ではその半分程度の高さになりません。

コラム

村の生活

・ならせ餅・

小正月の十四日、知人の農家を訪れました。玄関先に「ならせ餅」がきれいに飾られていました。ならせ餅とは、やがて来る収穫期の作物の豊饒を予め予測して行われる模範的な儀礼で、「予祝儀礼」と云われています。これは、たわわに実った作物を思い描きながら祈りを込めて飾るもので、屋内に豊饒を再現させるというものです。龍ヶ崎地区では、樺の枝に小さくまるめた餅を刺して飾ります。樺を使用するのは、冬でも葉がついているため餅を刺すと花が咲いたように見えることから使われるようになりました。また樺の字が「春」の「木」と書くように春の喜びを伝えるものとして縁起がよいという考えがありました。お隣の牛久では樺ではなく、コナラやクヌギの枝を利用します。この風習は「農耕儀礼」の一つとして全国の農村部で見られ、呼び方もそれぞれ異なっています。



ます。茨城の県南では「ならせ餅」(農業)、他県では「もち花」(農業)、「まゆ玉」(蚕業)、「団子さし」(農業)などと呼ばれています。ならせ餅は十四日に餅をつけて飾り付けをし、十九日に取り外されます。これは「二十日の風に当てるな」という言い伝えがあることと、一月二十日が正月の祝い納めということから現在でもこの風習は守られています。

(坂 弘毅)

健康な森林づくり

第一駐車場前の杉林が大きく変わりました。上の写真は昨年十一月七日です。太陽の光も届かない程荒れた林でした。この一角を観察の森に併合するための間伐作業が始まりました。その後間伐と下草刈りの結果、下のような明るい杉林に変身しました。



2008.11.07



2008.12.25

2月の里山カレンダー

活動日は都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|--|--|---|---|-------------------------------|-------------------------------|--|
| 1 巨木リサーチ(受 9.00市役所玄関) | 2 (休園日) | 3 雑木林応援隊(畑) 13:00畑 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 雑木林応援隊 9:00炭小屋 | 9 (休園日) | 10 雑木林応援隊(畑) 13:00畑 | 11 (建国記念日) | 12 (休園日) | 13 里山自然観察隊 9.30NC | 14 Iコアッ'作戦 13:00NC (会報等原稿 ^レ 切) |
| 15 運営委員会9:00NC 理事会11:00NC Iコアッ'13:00NC | 16 (休園日) | 17 雑木林応援隊(畑) 13:00畑 | 18 チーム 街路樹(受 9.00 NC | 19 | 20 | 21 チーム 街路樹(受 9.30市役所玄関 Iコアッ'作戦 13:00NC |
| 22 雑木林応援隊 9:00ムジナ チーム 街路樹(受 9.30市役所玄関) | 23 (休園日) チーム 街路樹(受 9.30市役所玄関) | 24 チーム 街路樹(受 9.30市役所玄関 雑木林応援隊(畑) 13:00畑 | 25 チーム 街路樹(受 9.30市役所玄関 会報発送 13:00NC | 26 チーム 街路樹(受 9.30市役所玄関) | 27 チーム 街路樹(受 9.30市役所玄関) | 28 チーム 街路樹(受 9.30市役所玄関) |

凡例 森:観察の森, NC:観察の森ネイチャーセンター, P:駐車場, 炭小屋:観察の森駐車場奥の炭小屋, 畑:観察の森駐車場奥の畑,
コジユケイ:観察の森内コジユケイの林, 観察舎畑:観察の森内観察舎前の畑, ムジナ:結束町の雑木林(通称ムジナの里),

編集後記

正月気分も終え、早くも二月になろうとしています。ただ旧暦では一月二十六日が旧正月になり、最近まで旧暦で正月をしていた地方があります(沖縄や奄美諸島では現在も)。私も昭和半ばまで旧正月の生活を体験しました。正月には男松(黒松)と女松(赤松)の二種類の枝を門のところに飾り、毎朝松の芽(芯)のところに御飯を上げるのが日課でした。農作業は全て旧暦で管理していたようです。

二月は別名、如月(きさらぎ)・衣更着とも呼び、諸説では寒い季節に衣を更に重ね着することから「衣更着」になったともいわれていますが、広辞苑をみますと「生更ぎ」の意で草木の更生することをいう。着物を更に重ね着る意とするのは誤りとされています。その他に建卯月・令月・麗月・雪消月・梅見月・・・等の呼名があります。また、二月三日は節分です。節分は季節の移り変わる時の意味で「立春」「立夏」「立秋」「立冬」のそれぞれの前日をさしていたようです。特に立春の前日をさすようになったのは、冬から春になる時期が一年の境としてからとのこと。節分に豆を撒く行事は「追儺(ついな)」と呼び中国から伝わりました。大豆や柀の小枝に鰯の頭を刺し戸口につけます。炒った大豆を「柀」に入れ玄関や神棚等に「福は内・鬼は外」と発声し豆を撒いたものでした。場所によっては「福は内・鬼も内」というところもあるようです。

皆さんの家庭では豆まきはしていますか。このような風習は続けたいものですね。

(佐藤輝雄記)

広報委員会からのお知らせ

次号2月号の印刷発送は2月25日(水)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。よろしくお祈りいたします。